

## ボディメカニクスって何だろう

福祉 基礎介護 総合学科・第2学年  
石川県立金沢北陵高等学校・教諭

### 1 事例の概要

平成18年度入学生より介護福祉士国家試験受験資格対応のカリキュラムがスタートした。資格取得希望の生徒たちは、これから始まる校外実習（現場実習）に向けて、専門的な知識の理解と基本的介護技術の確実な習得を目指して学習している。また、福祉分野以外の進路を考えている生徒たちも将来役に立つという思いから、真面目に授業に取り組んでいる。

生徒たちは、提示された問題に対しては「自ら考え、気づき」「感じる」ことができる。しかし、それを他の人に理解してもらえるように伝えることが苦手な生徒もいる。このため、自分の意見を相手に理解してもらうためにはどんな工夫をすればよいかを、生徒自身が考えながら互いに学びあうことができるような授業展開とした。

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・ 利用者の心身の状態に応じた介護の展開過程に関心を持ち、介護技術に主体的・意欲的に取り組む。
- ・ 高齢になることにより生じる生活上の変化について理解する。
- ・ 利用者の日常生活の援助として基本的な介護技術を身につけ、介護技術を総合的に活用することの必要性を理解する。
- ・ 高齢者や障害者が自立と生きがいをもって生活ができるように援助する方法についての考えを深める。

#### (2) 指導上の工夫点（視点）

##### ① 体験を通して問題解決につなげる工夫

生徒が「見て、感じて、考える」体験ができるよう教材・教具に工夫を加えた。「ボディメカニクスの原則」に即して、一つ一つ体験していく形をとり、生徒が自主的・主体的に実習体験に取り組めるように、体験自体に「ゲーム的要素」を多く用いた。

##### ② グループワークを通じて表現力を養う

体験から自分が「気づいたこと」「感じたこと」「考えたこと」や、またなぜそう感じたのかをメンバーに伝える場面を多く取り入れた。さらに、2～3人の少人数グループ、全体発表など人数や発表形式を変え、生徒が自分の意見を相手に伝えるだけでなく、理解してもらうためにはどんな工夫をすればよいかを考えることができるような授業展開とした。

##### ③ 課題（テーマ）に対して理解を深める

ワークシートに、自分が「気づいたこと」「感じたこと」「その理由」を書く欄を設けた。自分の発見や気づき等を改めて文章にすることによって、新たな「発見・気づき」につながり、さらに理由も書き加えることで、課題に対して理解が深まるのではないかと考えた。

また、生徒用ワークシートを拡大し黒板に掲示することで、生徒全員が体験学習に見通しを持って、自主的・積極的に学習できるのではと考えた。さらに、キーワードとなる部分には最初付箋をつけて隠し、答えを生徒が主体的に考えることができるよう配慮した。

### 3 指導の実際

<教師の発問・課題提示>

【問題】 要介護者（利用者）にとっても、介護者にとっても、安全で安楽な介護技術：ボディメカニクスとは何だろうか。

<体験学習>

（①～⑧の体験を通して）利用者の方に運動・移動していただく際に行う介護はどんなことが大切なのか、体験してみよう。体験からそれぞれ気づいたこと、感じたことを書こう。また、なぜそう感じたのか理由も考えてみよう。

<発表会>

利用者の方に運動・移動していただく際に行う介護はどんなことが大切なのか考えてみよう。

<生徒の活動>

（ボディメカニクスの意味を知る）

（原則について体験学習する）

（体験について発表する）

C-1 指導案

C-2 ワークシート

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

##### ① 体験を通して問題解決につなげる工夫

実際に「目で見て」「感じて」「考える」ことを体験教材に盛り込んだことで、知識だけでは理解できにくい部分について、生徒が改めて考えを深めることができた。さらに、体験自体に「ゲーム的要素」を多く用いたことで自主的・主体的に取り組む姿が見られた。

##### ② グループワークを通じて表現力を養う

2～3人の少人数グループワークを数回行った結果、生徒の協調性と行動力が養われた。グループ内の意見交換だけでなく、他のグループの意見も聞きに行く生徒もいた。また全体発表会では、全員が何らかの意見を発表することができ、さらに、何とかして自分の意見を他の人に理解してもらえるように、身振り手振りも交えながら発表するという工夫も見られた。

##### ③ 課題（テーマ）に対して理解を深める

1つの体験が終わるごとにワークシートに取り組みさせたことで、記憶の新しいうちに自分の考えや感じたことをまとめることができた。また、なぜそう感じたかの理由を記述する欄には、生徒なりに一歩踏み込んだ内容が記入されていた。さらに、拡大ワークシートを掲示した結果、生徒全員が見通しの持てる自主的・主体的学習を行うことができた。また、掲示物に付箋を貼ることで、原則のどの部分が大切なのかが視覚的にも理解できた。

#### (2) 課題

- ・ 実際に体験学習する前に、生徒がこれまでの知識・理解をもとに予想をたてた方が、体験学習に興味・関心を高め、より積極的に体験に取り組むことができたと考えられる。
- ・ 授業の内容及び時間にボリュームがありすぎたことから、内容の精選を図るとともに、知識を学ぶ部分、生徒が体験する部分、まとめる部分と3つに分けて展開する必要を感じた。
- ・ 生徒の発表に対して、その内容についてのコメントが中心となってしまったが、話し方や発表態度などについても、日頃の生徒の言動と比較して、より適切に評価することが大切であると実感した。